

## 宮崎県総合博物館

特別展「黒潮はくぶつかん～日向灘から琉球列島の生きものと海の恵み～」

開催期間：2023年10月14日（土）～2023年11月26日（日）



### 【企画展の内容・目的】

- 黒潮や日向灘の海をキーワードに日向灘の海や沿岸部には多様な生き物が生活していることを学ぶ機会を設定し、自然系と人文系を含めた総合博物館ならではの展示を展開することで、海や海岸部の生き物、人々の暮らしが海の恵みと密接に関わってきたことを知ってもらい、「海の学び」を深める機会とする。
- 10の付帯事業から、海という環境やそこに住む生き物の生態や人々の暮らしとの関わりについて正しく理解し、「環境保全」意識を高める。
- 県内外の関係機関と連携して展示や講座等を実施することで、海洋教育の機会創出や発展拡充につなげ、海洋教育を持続的に実施する。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：2023年10月14日（土）～2023年11月26日（日）
- 開催場所：宮崎県総合博物館 特別展示室
- 入場者数：17,649人



宮崎県総合博物館 外観

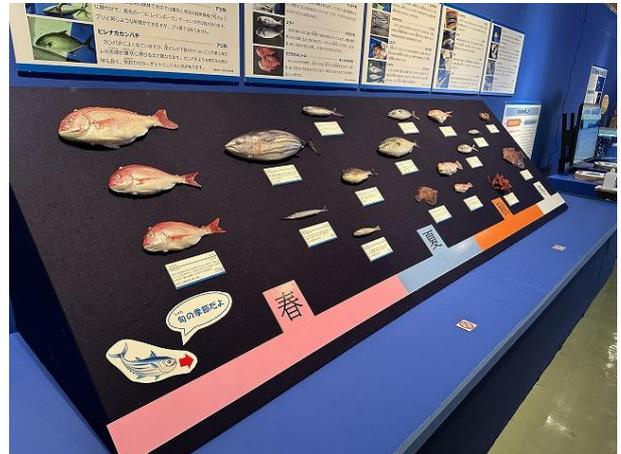


企画展会場 入口

## 第1章 日向灘のいきもの



黒潮の海流種子



日向灘の魚類



波の音体験コーナー



海藻アクリル標本



ザトウクジラの骨格標本



日向灘の生き物生体展示

第1章は、黒潮が流れる日向灘の海をテーマに、黒潮が運んだ海流種子、アカウミガメやジンベエザメの顎骨やえら、皮膚などの標本、海岸に打ち上げられた長さ8.7mのザトウクジラの骨格標本などを展示しました。また、日向灘で捕られるカツオやサバ、ハマチなどの生活で身近な魚類約15種類の模型のほか、青島に打ち上がる海藻、波音を奏でる体験コーナー、宮崎海洋高校の展示協力を含めた生体展示を行い、黒潮をはじめ日向灘沿岸部の生き物の多様性を感じてもらおうコーナーとしました。

## 第2章 日向灘の地質と化石



古代黒潮関連の化石



クジラの化石



県内で産出された熱帯性サンゴの化石1



県内で産出された熱帯性サンゴの化石2

第2章は、日南海岸に見られる鬼の洗濯岩や宮崎平野に広く分布する段丘地形などの本県を代表する特徴的な地形・地質を中心に紹介し、本県は黒潮の影響を受けて形成している場所が多いことを紹介しました。黒潮は、古くから日本列島南西沿岸に存在し、気候変動の記録を化石として残してきました。宮崎平野を形成する宮崎層群から産出される様々な海洋生物化石を展示することで、熱帯だった古代の海と宮崎の大地が密接に関係していることを知っていただく機会としました。

### 第3章 日向灘と琉球の植物



海岸性植物1



海岸性植物2



海岸クロマツ林のきのこ



国立科学博物館巡回展「琉球の植物」パネル展示

第3章では、日向灘沿岸部の磯や砂浜、海辺に適応して生育している植物や、国立科学博物館の巡回展「琉球の植物」のパネルをはじめ、琉球列島の植物のレプリカ、乾燥標本を展示しました。

磯や砂浜のような海の影響を受ける海岸には、山地とは異なる生物が海による潮風や強風を受けて生育することで、本島の植物の多様性を高める環境であることを紹介しました。

また、琉球列島は黒潮の影響もあり、大陸と島が分離や孤立を繰り返すことで多様な環境が作られ、宮崎には自生しない南方系の植物が自生し、島が孤立し、海の影響を受けて生物の進化が起こる要因についても紹介しました。

#### 第4章 黒潮ルートの世界自然遺産



宮崎大学との共同制作 VTR



琉球列島の固有種資料 1



琉球列島の生きもの固有種資料 2



琉球列島の生きもの関連資料

第4章は、黒潮の通り道となっている琉球列島には世界自然遺産となった自然環境が残され、多様な生物が生息しています。このコーナーでは、琉球列島に生息する固有動物の剥製やレプリカ、写真を展示し、宮崎大学と共同制作した子供向けの「琉球列島の動物」もあわせて上映することで黒潮が育んできた琉球列島の生きものを紹介し、宮崎に流れてくる黒潮は世界的に貴重とされる世界自然遺産にも影響を与えていることを学び、海と陸上生物との関係を知って頂く機会としました。

## 第5章 日向灘の人々の暮らし



昔の港の写真、油津港のチョロ船



海の幸を使った郷土料理



貝塚出土の貝類と縄文土器



貝塚出土の鯨類骨ほか



刀、貨銭、輸入磁器



島津忠広画像（掛け軸）

第5章は、日向灘沿岸部で、海の恵みを受けてきた人々の暮らしや歴史を紹介しました。民俗部門は県内の昔の港の様子の写真や船の模型、かつて盛んに行われていた真珠やブリ漁、郷土料理などを紹介しました。考古部門は、南九州の海に近い縄文貝塚から出土した釣り針や石錘などの漁労用具の他、貝製腕輪などの装飾品など、歴史部門は、遣明船と関係があった日南市油津や外之浦などの港を支配していた島津豊州家に関する資料を展示しました。これらの資料から、先史より本県の人々は海との関わりが深く、日向灘の海は戦国時代に重要な航路となっていた歴史があることの興味関心を深めてもらう機会としました。

## 第6章 海の不思議ないきもの



新聞紙で制作したふしぎな海のいきもの1



新聞紙で制作したふしぎな海のいきもの2

第6章は、木暮奈津子氏によるペットボトルや海岸に打ち上げられたプラスチックゴミ、新聞紙を材料に制作した海の生き物の作品を展示しました。木暮氏は黒潮が流れる千葉県房総半島で新聞紙を使って海の生き物の作品を制作し、海を背景に写真を撮ることで作品を完成させる造形作家です。主に日向灘に生息する海の動物をメインに約350点の作品を展示しました。木暮氏は古紙となる新聞紙やペットボトルを使った生き物を制作される芸術作家です。海の生き物への親しみを持ってもらうとともに、普段は古紙として処分される新聞紙で制作された海のいきものの作品を鑑賞してもらい日常生活の中でゴミを出さない、海を汚さないようにする「海を守る」環境保全の意識を親子で高めてもらう展示を行いました。

### エントランス展示 日南海岸のサンゴといきもの



日南海岸のサンゴといきもの写真1



日南海岸のサンゴといきもの写真2



日南海岸のサンゴといきもの写真3



ジンベエザメと黒潮の魚の写真スポット

エントランスでは、体長5mのジンベエザメや黒潮で見られる海の生き物の拡大写真と記念撮影ができるスポットや、特別展会場で展示できなかった日南海岸に生息する魚類、珊瑚などの写真パネルを展示し、展示会場で紹介できなかった海の生き物にも興味を持って頂く機会を創出しました。

## 【来館者の声】

- 海を大切にし、生物を守りたいと思いました。そして、海の悪影響は、人間のせいでもあることを改めて、感じました。
- 海はぼくたちの大切なもの。ずっとずっと仲良く、大切にしたいです。
- 海の生き物はゴミを食べたりするので、海をきれいにしようと思った。
- 歴史があり、守るべきところが、たくさんあると思いました。
- 人の暮らしに直結する、つまり海が人の文化を作りあげること。
- 海には、いろいろな魚がすんでいて、海はわたしたちにとって、とても大切なものだったことを学びました。
- 普段スーパーの魚しか見なくなっていたので…。小さい頃にいった海の思い出が、よみがえりました。資源を大事にして、子どもたちがゆたかに暮らせるよう、できることを実行しようと思いました。ありがとうございました。
- 海にいる生物にとって自然は大切で、環境の保全はとても重要と思った。
- 海はとってもかわいい生き物や、おどろきの生き物がいるので、海にゴミをすてる人が、ゴミをすてなければいいなとおもいました。

## 2. 関連事業の内容

### ■①海藻ウォッチング

【開催日時】 2023年5月20日（土） 10:00 ~ 12:00

【開催場所】 宮崎市青島（宮崎市）

【参加者数】 29名

【実施内容・目的】

- 鬼の洗濯岩が広がる日南海岸の岩場には多くの海藻が繁茂していますが、その存在はほとんど知られていません。この講座では海岸で実物の海藻を採集・観察し、本県沿岸に自生する海藻の種類や生態を学ぶとともに、海藻採集時に見られる海ゴミの現状から青島の渚の交番と連携して環境問題についても学習することを目標としました。



渚の交番室内での説明のようす



海での海藻採集のようす



参加者による海藻の仕分け作業



同定作業と解説の様子



海岸清掃の様子



参加者集合写真

今回の観察会では、30種類を超える海藻を採集し、全員で同定作業を行いました。黒潮の育む豊かな海における海藻の多様性を学習し、講座の最後に「漂着ゴミの清掃活動も行うことで、環境保全についても考えていただくことができました。

### 【来館者の声】

- 海の波の音や海藻に触れたことで、自然を感じることができ心地よかったです。
- こんなにもいっぱい海藻が打ち上がっているなんて知らなかった。
- 娘に自然に興味をもってもらい、色々なことを身につけたり、感じてもらった。
- 海に住んでいる生き物をたくさん知ることができて、なんだか知らない世界にききたいな気がしました。
- うみについてよくわかった。
- 海に思いのほかゴミが落ちているのがわかりました。
- キレイな海をずっといじできればよいなと思いました。

## ■②宮崎と琉球列島の海岸の砂を比べてみよう

【開催日時】2023年7月16日（日）10:00～12:00

【開催場所】宮崎県総合博物館 研修室1

【参加者数】12名

【実施内容・目的】

- 海浜砂は鉱物や生物骨格などの粒子で構成されています。これらは砂浜の周囲にある地形・地質や海棲生物の分布・多様性を反映したものです。黒潮が流れる日向灘および琉球列島の海浜砂の顕微鏡観察やプレパラート作成を行うことで、身近な自然とふれ合う機会をつくり、海洋環境への興味関心を高めてもらうことを目標としました。



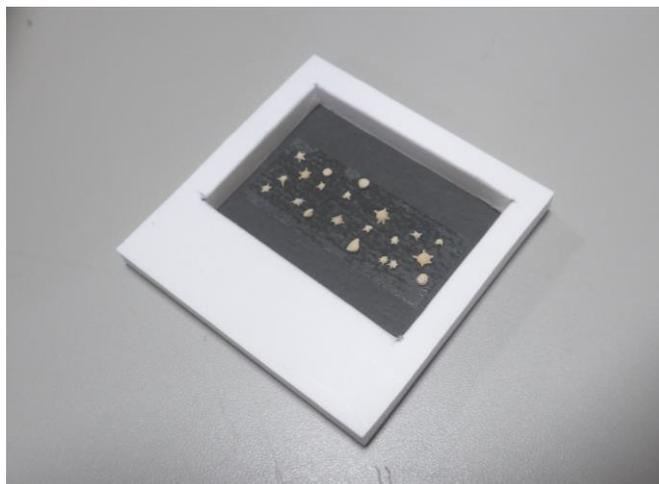
会場の様子



海浜砂についての解説



顕微鏡観察する参加者



参加者が作成したプレパラート

海の砂について深く考えてもらう機会として、参加者には顕微鏡観察と鉱物や生物骨格（有孔虫・コケムシなど）の同定、プレパラート作成（砂粒を自由に台紙へ貼り付ける）をしてもらいました。海浜砂から生物や自然環境について考えることで、海に対する興味を深めて頂きました。

## 【来館者の声】

○黒潮のもたらすものの多さを思うと、全てはどこかでつながっていて、大切にしていきたいと思った。

○いろいろな種類の砂を自分でさがしてみたいと思った。

○海は、生物がたくさんいるところで守らなければいけない。

○海には色々な生き物がいて、その生き物が砂になったり、山の岩石が砂になったりして、おもしろい。

○とてつもなく長い年月をかけてマグマから砂になり、また海中で生きている様々な生き物が砂になるという地球全体のことを感じました。人間の都合でダムを作り砂浜がなくなるなど、身近で起きている環境問題も知ることができました。

○不思議で魅力的だなと思った。

○砂を見れば海の豊かさがわかる。

### ■③新聞紙とペットボトルで海のいきものづくり

【開催日時】2023年10月9日（月） 13:30~16:00

【開催場所】宮崎県総合博物館 研修室2

【参加者数】25名

【実施内容・目的】

●展示コーナーに設置する新聞紙で製作された海の生き物を展示することと併せて、子供たちに海洋のゴミとなる可能性があるプラスチックゴミは都会では普通に打ち上がっていることを知ってもらい、リサイクルすることで再利用ができることを学んでもらいました。新聞紙やプラスチックゴミを使いたいきものを製作することで、参加者が古紙やゴミになる材料を意識し、海をきれいにするのは、海の生き物を守ることにつながることを学習することを目標としました。



会場の様子



講師による説明



新聞紙の表面に白色を塗った紙を貼る。



形を整えた新聞を着色する。

新聞紙やペットボトルなどのプラスチックゴミが、きれいで楽しい海の生き物の作品に変わっていく過程を親子で体験することで、海の環境問題が身近なものであることを知ってもらい、日頃から自分たちの生活の中で出るゴミが海を汚さないように心がけるなど、参加者の海を大切にする意識の向上につながりました。

## 【来館者の声】

- 海岸にペットボトルなどプラスチックのゴミが流れてきているので、きれいにしなければいけないと思いました。
- 海の大切さ、ビニール、ペットボトルなどのプラスチックゴミを捨てない。見つけたらひろって持って帰る。
- ゴミが海を汚してしまっていると感じた。
- 海にゴミが落ちているのは、悲しいからゴミを拾いたい。

## ■④日明・日琉交流と日向国

【開催日時】 2023年11月4日（土） 10：30～12：00

【開催場所】 宮崎県総合博物館 研修室1

【参加者数】 29名（会場参加者21名、オンライン参加者8名）

### 【実施内容・目的】

●日明貿易は15世紀のはじめ室町幕府将軍足利義満により開かれました。この主要航路は、畿内～瀬戸内海＜中国航路＞～博多～明の寧波（にんぽー）でしたが、遣明船派遣主体である細川氏と大内氏の対立により、土佐沖・日向灘沖をルートとする＜南海路＞が用いられるようになりました。この南海路の採用により、日南市油津などの港湾やその領主は日明貿易において重要な存在となっていきます。本講座では、この日明貿易南海路と日向国の関わりを考察して頂く機会としました。



講演の様子（近景）



講演の様子（遠景）

中世対外関係史の研究者である伊藤幸司氏（九州大学大学院 比較社会文化研究院 教授）から、日明貿易の遣明船が、南海路（日向灘や土佐沖の航路）を用いて明と往来した経緯や、その航路上の港を支配する飢肥領主島津豊州家の歴史についての講話を頂きました。そのなかで、島津豊州家は琉球との交流があったことや、そのことが国内外の政治史に影響を与えた説明もありました。以上の講話を受けて、参加者は、海を通じた国内外との広い交流を学ぶことができ、海の重要性を認識されていました。

### 【来館者の声】

- 宮崎と世界が海を通じて広がっていたことや南九州が中世において重要な外交経済文化的役割を担っていたことを学びました。
- 宮崎がいかに海を通じて、世界とつながっていたか実感できました。
- 海を通じて世界はつながっていると感じました。

## ■⑤カツオ一本釣り体験と海の恵み販売会

【開催日時】 2023年11月5日（日） 10:00 ~ 15:00

【開催場所】 宮崎県総合博物館

【参加者数】 1610名

【実施内容・目的】

●日本農業遺産日南かつお一本釣り漁業遺産保全推進協議会と連携するイベントで、かつおの一本釣り体験」では、約2キロあるかつおの模型を釣り上げる疑似体験と地元漁港の職員などからの解説により、こどもから大人を含む幅広い年齢層を対象として伝統漁法の体験と共にその歴史や仕組みについて学んでもらいました。「海の恵み販売会」では、日向灘を流れる黒潮がもたらす、豊富な海産物として日南市で水揚げされる水産物や加工品について、広く来場者にPRすることを目的としました。



カツオ一本釣り体験の様子①



カツオ一本釣り体験の様子②



海の恵み販売会



販売会で実施した擬餌針づくり

「かつおの一本釣り体験」では、かつおの模型を釣り上げる疑似体験を行い、地元漁港の職員の方からの解説を受けながら、伝統漁法を守る大切さや体験を通して、解散資源の守ることの重要性を知って頂きました。「海の恵み販売会」では、日南市で水揚げされる水産物

や加工品の販売を行い、海産物のPRとあわせて擬餌針づくりのコーナーも設置され、楽しみながら、きれいな擬餌針づくりに挑戦する光景が見られました。

### 【来館者の声】

- ふだん気軽に食べているお魚の恵みに感謝したいです。
- 漁師の人の体力と技はすごいと思った。
- 孫とカツオ一本釣りを楽しむことができました。
- 知らないことがまだまだたくさんあると思いました。
- 海をこれからも守りたいと思いました。

## ■◎深海生物に触れてみよう！

【開催日時】 2023年11月5日（日） 9：00～17：00

【開催場所】 宮崎県総合博物館

【参加者数】 1,610名

【実施内容・目的】

- 宮崎県延岡市の北浦漁協では水深200～400mの深海生物が多く捕獲されます。これらは水深の浅い海域の生き物とは形態が大きく異なり、非常に興味深い生物です。当事業ではこれらの宮崎産の深海生物を観察・触察することができ、その多様性から宮崎県の海の豊かさを再認識する事や、低年齢層が海の生き物に興味を持つきっかけとなる事を目的としました。



イベントの様子①



イベントの様子②



深海生物



会場の様子

宮崎県の北浦漁港の底引き網で捕獲された深海魚を冷凍して保管しておき、それらを解凍したものを参加者に触って頂いた。深海魚の種類や生態など、実物を触りながら説明することで、参加者はより深海生物への関心が深まったようです。スーパーや鮮魚店に並ぶ魚とは違い、初めて見るような形態の魚たちに興味津々でした。

## 【来館者の声】

- 海にはいろいろな形や色の魚がいて、触り方によっていろいろな感触になる事が分かった。
- 海の生き物に触れる機会が少ないので、本だけの知識では得られない学びを得られました。
- 同じ海にこんな形で深海生物が生きているのだと子どもに伝えることができた。

## ■⑦めざせ！海の化石ハンター

【開催日時】2023年10月15日（日） 10:00～12:00

【開催場所】川南町通浜

【参加者数】53名

【実施内容・目的】

●展示会では、第3章：日向灘沿岸の地質と化石において、宮崎層群の熱帯性化石群集を展示しました。この事業では、この時代の地球環境がやや寒冷期に向かう、宮崎層群堆積の末期にあたる約200万年前の地層から産出する化石を採集し、展示会の内容をより深く理解してもらうことを目的としました。



化石採集の様子



集合写真

海に生きた貝などの化石を採集する講座を川南町通浜で実施しました。講師に宮崎県の化石に精通した赤崎広志氏（宮崎県総合博物館 副館長）が行い、安全な化石の採集の仕方や、化石の特徴、化石の扱い方など、詳しく説明をして頂きました。

最初に10分ほどの説明を海浜公園で行った後に、海に流れ出す河原での化石採集を60分程度行い、その後、海浜公園に戻ってきて化石の扱いについて15分ほどの説明をして頂きました。

### 【来館者の声】

- 海にはたくさんの化石があるんだなあと思いました。
- 宮崎の海にもまだ知らないことがたくさんありました。
- 海や川にゴミを捨てないようにしたいです。

## ■⑧食中毒と寄生虫～アニサキス観察会～

【開催日時】 2023年11月12日（日） 10:00～12:00

【開催場所】 宮崎県総合博物館 研修室2

【参加者数】 10名

【実施内容・目的】

●持続可能な漁業を推進するためには、食の安全性を学ぶ事が重要です。宮崎大学農学部 吉田彩子教授を講師にお迎えし、この時期に食卓に並ぶ事が多い「サバ」を解剖し、体内に寄生する寄生虫アニサキスを生きた状態で取り出して観察しました。アニサキスは2021年の食中毒の事件数の約半数を占めるほど報告が多く、近年急増しています。これらの寄生虫から身を守るために正しい知識を身につけ、水産資源の安全性を正しく理解する人が増えることを目的としました。



講師の吉田先生



サバを解剖する様子



講座の様子



サバに寄生するアニサキス

サバを解剖してアニサキスを取り出し、しょう油やお酒に浸しても死なない事を確認し、その後、酢酸を滴下した寒天培地の上（人工的に腸の中を再現したもの）に置いたところ見事に寒天内に侵入しました。来館者からはアニサキスの発見時に歓声上がり、無我夢中でサバを解体していた様子が印象的でした。

食中毒もテーマにしているため、アニサキス症の説明や感染者の多い時期や宿主など、わかりやすい資料で説明があり、どのスライドもうなずいてしまうほどの内容でした。「寄生」という生存戦略と、「食中毒」という实际生活に直結した情報を両方学べる講座内容でした。

## 【来館者の声】

- アニサキスについての生態を初めて知り、今度魚を食べる時があれば調理する前にアニサキスがいるか調べてみたいです。
- 魚と人間と寄生虫の関係を考える良い機会でした。調理や食べる時にも気をつけてみます。
- 魚にいる寄生虫に気をつけながら楽しく料理していきたい。食べる時に気をつけたい。

## ■◎みやはくモンスタークエスト ～海属性編～

【開催日時】 2023年12月16日(土) 10:00～12:00

【開催場所】 宮崎県総合博物館 研修室2

【参加者数】 26名

【実施内容・目的】

- チリメンジャコの中にまぎれている、カタクチイワシの稚魚以外の生き物(チリメンモンスター)を探し、ルーペや実体顕微鏡で観察しましたタコやイカ、カニやタツノオトシゴなど、様々な生き物を発見し、発見した生き物は名前を調べ、最後に「オリジナルチリメン図鑑」を作製し、海の生態系や環境問題について考えてもらうことを目的としました。



最初の説明の様子



チリメンモンスターを探す様子



見つかったチリメンモンスター



講座の様子

講義ではチリメンができるまでの工程や、チリメンモンスター(チリメンジャコの中に混入するカタクチイワシ以外の生き物)について説明を行いました。イカとタコの見分け方や、カニの幼生であるソエアやメガロパについて、形態的な特徴をスライドで表示しながら説明しました。参加者は海の生き物について興味がある方ばかりで、海の生き物の図鑑を2冊も持参している小学生もいました。

チリメンモンスターを探す作業の際は、どの参加者も集中しており、付き添いの保護者も一緒になって夢中でレアなチリメンモンスターを探す姿が印象的でした。比較的珍しいタツ

ノオトシゴやカワハギ、ウオノエなどが見つかるたびに歓声があがり、大変盛り上がりました。

オリジナル図鑑作りでは、名前の調べ方のアドバイスをしたり、顕微鏡を使って拡大したりして、参加者のサポートを行い、参加者は自分たちで作成したオリジナルチリモン図鑑に満足げな様子でした。

### 【来館者の声】

- 少しの中でも、これだけいろんな種類の生き物があると子どもと一緒に学びました。
- 魚がそれぞれ形が違って名前が違うことを学びました。
- 魚の赤ちゃん達やカニ、エビ、タコ等と一緒に生活しているんだなと思いました。そういう場所を守っていかないといけないですね。

## 【事業全体のまとめ】

当館における海をテーマにしたこれまでの展示会は、自然系が中心であったが、歴史系を含めた展示を行うことで、各部門の特性を生かした海の学びに繋がる展示テーマを設定し、多様なジャンルの関係機関の協力を得ながら海の情報を紹介を総合的に展開しました。

海の生き物だけでなく、黒潮の影響で育まれる世界遺産の陸の生き物も含め、黒潮の流れは世界自然遺産を生み出す気候の要因にも関わっていることの内容も盛り込み、多様な資料を展示することで海のすばらしさを幅広く紹介することができた。黒潮が流れる日向灘の海は、海の生き物だけでなく、古代から人々の暮らしに大きく関わっており、漁業や郷土料理などいかに自分たちの生活に大きな恵みを与えているかを様々な連携を通して収集した情報を元に表現しました。これまであまり特別展のテーマとして取り上げてこなかった日向灘の海と人々の暮らし、日明貿易や遣明船に関する新たな情報を今回の展示会に併せて紹介できたことで、新たな歴史情報や宮崎の海の魅力の新発見に繋がりました。

今回のような自然・歴史・民俗の総合的な展示を様々な連携先と作り上げたことは、海をテーマに新たな視点での展示や普及活動での継続した事業の広がりが期待でき、今後も宮崎の気候や多様な生物、人々との関わりを紹介する多様な事業を展開していく上で大変意義深い事業でした。

## 3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称           | 連携・協力の内容                                    |
|--------------------|---|
| 宮崎県立宮崎海洋高等学校       | 日向灘のミニ水族館における企画、水槽設置                        |
| いおワールドかごしま水族館      | ジンベエザメ関連資料の借用                               |
| 宮崎市青島ビーチセンター「渚の交番」 | 講座「海藻ウォッチング」の企画運営                           |
| 宮崎大学               | 宮崎大学ミニ水族館の生体展示、パネル展示、広報VTR、琉球列島の生きもの紹介VTR制作 |
| 鹿児島県立博物館           | 琉球列島の動植物関連標本等の借用                            |
| 独立行政法人国立科学博物館      | 巡回展「琉球の植物」パネル借用                             |
| 日南海岸サンゴ群集保全協議会     | 日南海岸の海の生き物写真展パネル借用                          |
| 南郷商工会              | カツオの一本釣り体験、海の恵み販売会                          |
| 鹿児島県歴史・美術センター黎明館   | 飢肥領主島津豊州家に関する資料を借用                          |
| 志布志教育委員会           | 志布志城出土資料を借用                                 |
| 宮崎県立図書館            | 「外之浦絵図」を借用                                  |
| 垂水市教育委員会           | 縄文時代の貝塚出土資料を借用                              |
| 奄美市立奄美博物館          | 展示内容に関する指導                                  |
| 門川町教育委員会           | 講座「カンムリウミスズメ観察会」の企画運営                       |

## 4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名  | 見出し、掲載日  |
|--------|--|
| 1. テレビ | 報道番組リンク UMK テレビ宮崎 (10/13)<br>報道番組チェック MRT 宮崎放送(10/24)<br>NHK 昼のニュース NHK 宮崎(11/6) |

|        |   |
|--------|---|
|        | 報道番組てげびび NHK 宮崎 (11/6)<br>海の日本プロジェクト MRT 宮崎放送(11/12)<br>報道番組てげびびサタデー NHK 宮崎 (11/18)   |
| 2. 新聞  | 博物館講座・特別展講座参加者募集 宮崎日日新聞(9/10)<br>生き物と海の恵みを紹介 朝日新聞 (9/30)<br>日向灘 歴史や恩恵学ぼう 読売新聞(10/26)<br>特別展「黒潮はくぶつかん」開催中 毎日新聞 (10/28)<br>黒潮と生きる動植物紹介 宮崎日日新聞(11/3) |
| 3. ラジオ | バリ朝！土曜日 MRT ラジオ (11/4)  |

以上